

## カラフル夏野菜のイタリアンマリネ



今回は夏野菜のマリネをご紹介します。暑い日にもぴったりの、冷たくさっぱりと、たくさん野菜を食べられるメニューです。カラフルな夏野菜で食卓を彩り豊かにします。具材を炒めてマリネ液に浸すだけの簡単調理なので、ぜひお試しください。

### 《作り方》

#### 準備

☆野菜はお好みで食べやすい大きさに切る。  
やわらかめがお好みの方はさっとゆでるのが  
オススメ！

1. ボウルにマリネ液の材料を加え、よく混ぜ合わせる。
2. フライパンにオリーブオイルを熱し、ニンニクを香りが出るまで炒める。
3. 2に玉ねぎを加え、しんなりするまで炒める。
4. 3にパプリカ、人参、ズッキーニを加え、塩コショウをしてさらに炒める。
5. 炒めた野菜をマリネ液と一緒にポリ袋や保存容器にいれ、全体を良く和えたら、冷蔵庫で30分～1時間浸しておく。
6. 盛り付けて完成！

※お好みの野菜でもアレンジしてみてください♪

### 《栄養成分(1人分)》

エネルギー	60 kcal
炭水化物	7.4 g
たんぱく質	1.1 g
脂質	3.2 g
塩分	0.7 g

### 《材料(5人分)》

ズッキーニ	1/2本 (100g)	☆	マリネ液	酢	大さじ1強 (20g)
アスパラガス	4本 (80g)	☆		水	大さじ1強 (20g)
黄色パプリカ	1/2個 (60g)	☆		バジル	少々
赤パプリカ	1/2個 (60g)	☆		白コショウ	少々
人参	1/2本 (100g)	☆		塩	小さじ1/2 (3g)
玉ねぎ①	1/2個 (100g)	スライス		砂糖	小さじ2/3 (2g)
ニンニク	ひとかけ	スライス		玉ねぎ②	10g すりおろす
オリーブオイル	大さじ1強 (15g)				
塩	少々				
コショウ	少々				

## お知らせ

### 高校生さわやか看護体験を開催しました！

看護部では8月3日に高校生を対象に看護体験を実施しました。当日参加した高校生16名は看護師と同じユニフォームに着替え、病棟で実際に患者さんとお話をしながら看護師と一緒に血圧を測ったり、足浴などの看護ケアを体験しました。終了後の意見交換会では、「患者さんと接するのは緊張したけれど、患者さんにありがとうと言われて嬉しかった」、「看護師の仕事を体験できて、看護師になりたいという気持ちが強くなった」などの感想が聞かれました。



# ふれあい

# 71



「夏の浜辺」 画 I.Tamura

### 今号の内容

- ◇ 新任院長として
- ◇ 新任のご挨拶
- ◇ 「腎センター」について
- ◇ 病院発クッキングコーナー
- ◇ お知らせ

## 新任院長として

院長 西川 正憲

ふれあいをお読みいただきありがとうございます。2023年4月1日に院長に就任しました西川正憲です。

当院は、1971年10月1日の開院以来、地域の医療機関である「かかりつけ医」との連携を大切にしながら、高度急性期病院として、医療環境の変化に対応した「より良い医療」を提供するべく運営しています。

将来にわたりこの地域での高度急性期病院としての医療を保つためには、患者さんと皆さまのご協力をいただきたいと思えます。定期的な受診による持病の管理、病態に応じた医療機関の選択、治療から介護への移行など、地域全体での適切な備えをお願いいたします。まずは気軽に相談できる「かかりつけ医」を作りましょう。そして高度医療が必要な場合は「かかりつけ医」の紹介で当院受診をお願いいたします。その後、病状が安定しましたら、「かかりつけ医」などでの医療継続をお願いいたします。

当院では、引き続き適切な感染管理体制を継続し、「新型コロナウイルス感染症と共存する地域基幹病院・高度急性期病院」として、これまでを継承・発展しつつ、「より良い医療人になる」「より良い医療を提供できる」「より多くの患者さんに選んでもらえる」「より適切な地域医療連携が構築できる」、そして、「藤沢市民病院をより好きになつてもらえる」ように、職員一同、今後も努力を続けてゆきます。

より多くの皆さまに信頼され選んでもらえる病院を目指してゆきます。



## 新任のご挨拶

### 副院長 岩瀬 滋



2023年4月より藤沢市民病院副院長を拝命しました岩瀬滋でございます。私は1994年5月から1996年3月まで当院で初期研修医、その後横浜市立大学附属病院、横浜掖済会病院、国立がんセンター東病院などを経て、2000年4月から当院消化器内科に赴任しました。2007年4月から消化器内科科長、2019年4月から診療部長を拝命し、現在に至ります。

現代の医療は細分化、高度化している一方、各診療科、看護師、薬剤師などの医療技術部門、医療職以外の病院職員、また、地域のクリニック、病院、訪問看護ステーション、地域サポートセンターなどとの相互協力の上で成り立っております。

院内の一人一人がその医療の一端を担っているという自覚の元、院外の医療に関わる皆様のご協力を賜りながら、当院の医療をレベルアップして地域の皆様の安心・安全に少しでも寄与できるように努めていく所存であります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

### 看護部長 坂上 雅子



4月より看護部長を拝命しました坂上雅子です。看護師長を7年、副看護部長を7年経験して参りました。自分に何ができるだろうかと考え、あっという間に3か月がたっしてしまいました。私が看護師を目指した理由は、恩人の終末期に何もすることができなかった経験をしたからでした。看護師を目指す理由は様々ですが、看護の素晴らしいところは、漢字の意味する通り「手と目」で患者さんを「護る」ことです。私たち看護部には、看護師・助産師・保健師・保育士・歯科衛生士等の専門資格を持った職員と看護補助者がおり、24時間ベッドサイドで患者さんと係わります。

地域の皆様が安心して治療に臨めるように、日々勉強し十分な観察を行うことで病状の変化にいち早く気づくことができるのも私たちです。

看護師一人ひとりが、働くことに喜びと楽しさを感じ、また、一緒に働く職員を尊重し共に成長できる組織づくりに努めていきたいと思っております。

### 副院長 山岸 茂



今春から副院長兼診療部長を拝命いたしました山岸茂です。2010年4月に藤沢市民病院外科に着任し、腹腔鏡手術やロボット支援手術の導入に携わってまいりました。これから副院長として、「よりよい医療を提供する病院、市民の皆様から選ばれる病院」を目標に精進する所存です。

当院の診療の特徴は、がん診療、救急医療、周産期医療です。がん診療は、地域がん診療連携拠点病院として、手術ではロボット支援手術など最新技術を提供し、外来化学療法室を充実させて、がんゲノム医療連携病院として地域のがん診療を担っています。3次救急医療施設としての救命救急センターは、救急科が脳血管疾患、循環器疾患などの重篤疾患を診療し、救急外科が緊急手術、多発・重症外傷を担当、小児救急科が小児の救急患者さんに対応しています。周産期医療では、新生児特定集中治療室(NICU)を整備して、地域周産期母子医療センター、神奈川県周産期救急医療システム中核病院として機能しております。また、2022年6月には生体腎移植を開始しました。日進月歩で高度化、複雑化する医療の現場ですが、安心・安全な医療の提供に努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

### 事務局長 中村 大



2023年4月より事務局長を拝命いたしました。

本市は「郷土愛あふれる藤沢 松風に人の和うるわし湘南の元気都市」の実現を目指しております。

こうした中、「藤沢市市政運営の総合指針2024」における5つのまちづくりテーマのひとつ「安全で安心な暮らしを築く」の中で当院は、高度急性期医療、周産期医療などを担う地域の基幹病院として、安全で安心な質の高い医療の提供が求められております。

また、病院運営の基本理念のひとつとして「地域医療に貢献します」と掲げております。

今後とも当院は、地域の皆様に信頼され選ばれる病院をめざし、事務局としてより一層、その機能を果たしていかなければならないと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 腎センターについて

### ■「腎代替療法」とは

「肝腎要(かんじんかなめ)」と言うように、腎臓は身体にとって大変重要な臓器です。しかしながら、わが国では毎年約4万人の方々が、その腎機能の廃絶のために生命を脅かされる危険性に直面しています。腎不全のために行われる治療法には「血液透析」、「腹膜透析」などの透析療法、その他に他人から腎臓を一つもらう「腎移植」があります。これらの治療法が腎代替療法と呼ばれています。

三つの治療法にはそれぞれ長所と課題があります。いずれかが優先するものでも、相反するものでもなく、相互に補完的なものです。生活環境変化によって、一つの治療法から別の治療法に移っていくこともまれではありません。

幸い、全ての分野で日本は世界のトップレベルにあり、いずれの治療法も安心して受けることができます。

### ■腎センター設立

こうした経緯を踏まえ、藤沢市民病院では包括的な腎代替療法を行うことを目的として2021年4月より腎センターが設立されました。

メンバーは、診療部医師(腎臓内科医、透析医、腎臓移植医、泌尿器科医)、外来・病棟看護師、さらには管理栄養士やメディカルソーシャルワーカーなど多職種の職員で構成され、月1回のカンファレンスを始めとして、日頃より腎不全患者さんにとって最適な治療法を提供できるよう連携をはかってきました。

2023年4月からは腎センター長に千葉喜美男医師(泌尿器科部長兼務)、副センター長に酒井政司医師(腎臓内科部長兼務)が就任し、また、腎センターの下部組織として「腎臓移植外科」と「腎臓移植内科」が新設され、それぞれ望月拓医師(腎臓移植外科医長・泌尿器科兼務)と酒井政司医師(腎臓内科・腎臓移植内科部長兼務)が担っております。

### ■当院初の生体腎移植

2022年6月、当院初の生体腎移植が行われました。移植手術の当日には、横浜市立大学附属市民総合医療センター泌尿器・腎移植科の先生方にも応援にかけつけていただき、万全の協力体制で行われました。神奈川県でも生体腎移植術を実施できる施設は当院を含め7施設と限られており、この湘南東部二次保険医療圏では初の実施、また公立病院としても県内初となりました。これにより、これまで腎移植を受けるために遠方まで通院を余儀なくされていた患者さんたちに、更なる福音をもたらすことにつながれば幸いです。

### ■今後の展望

当院での生体腎移植件数はその後も順調に数を重ねていますが、今後は、血液型不適合移植などのより難易度の高い患者さんにも安全に医療を提供できるよう取り組んでいきます。さらに将来的には、腎移植の一つの柱である、脳死や心臓死になられた方から腎臓の提供を受ける「献腎移植」も行えるよう体制を構築していきます。

最後に、腎移植を含めた腎代替療法の全てにおいて、現状に満足することなく、更なる高みを目指して職員一同研鑽を重ね、これからもより多くの腎不全患者さんに質の高い安全な医療を提供し、市民の皆様から信頼してもらえよう病院を目指していきたいと考えています。

### 腎センター副センター長 酒井 政司

